



色彩館に咲く

シラタマミズキ

Cornus alba

ミズキ科ミズキ属

原産地：アジア東部

美しい葉と枝が魅力的

シラタマミズキは高さ 3mほどになる落葉低木です。6月上旬から中旬にかけて、白い小さな花が集まって咲き、秋に小型の白い実をつけます。そして冬になると、鮮やかな赤色の枝が姿を見せます。

シラタマミズキの中で特に多く使われる園芸品種の‘エレガントシマ’は、白い斑入りの葉を持つことからギンフミズキとも呼ばれます。色彩館で植栽されているシラタマミズキは、暗い赤紫色の枝を持つ‘ケセルリンギー’という品種です。葉も赤紫色を帯びた色をしており、シックな印象の品種です。その隣に植栽されている同じミズキ属のコルヌス‘ミッドウィンターファイヤー’はセイヨウミズキと呼ばれ、こちらは根元から枝先にかけて赤から黄色にグラデーションしてゆく品種です。‘ミッドウィンターファイヤー’は‘真冬の火’と訳す事ができます。雪に隠されてしまう前にしか観賞できない北海道ですが、原産地であるヨーロッパ北部では、真冬の雪の中で焚き火のようなその鮮やかな枝を観賞することができるのです。園内には植栽されていないものの、黄色の斑入り葉の品種や、枝が黄色の品種などもあります。夏に葉を楽しむだけでなく、



枝にも観賞価値のあるシラタマミズキは、冬の緑の少ない時期でも、人の目を楽しませてくれる貴重な存在です。

庭に植えて楽しむほかにも、生け花の花材にも利用されます。また、とても良くしなる為色彩館では、シラタマミズキの枝を使いクリスマスリースを作りました。園内でとれたローズヒップで飾りつけ、異なる赤色が美しいリースができました。

シラタマミズキは、耐寒性が強いので北海道でも屋外で越冬することができます。半日陰でも育ちますが、なるべく日当たりの良い場所の方が良く育ちます。粘土質の場所は避け、腐植の十分入った場所に植えましょう。強めの剪定にも耐えるため、秋に地上部から 20cmほど残してきると、コンパクトに仕立てることができます。水木と書くほど、春にはぐんぐんと水を吸うので、春に強い剪定や移植を行なうと樹液が大量に出て木の勢いが弱ってしまうため注意しましょう。

色彩館のシラタマミズキは新芽が出始めました。枝を楽しむ時期から、葉を楽しむ時期へとシフトしつつあります。



バラには様々な色・形・大きさがありますが、その一つ一つに意味があり花言葉が存在します。バラを見るときに花言葉がわかると、少し自慢げになって人に教えながら、より楽しくバラを鑑賞できると思います。赤いバラの花言葉は愛や恋を意味するもので、だいたいの人が知っていると思われませんが、「情熱的」「美しさの象徴」などです。ほかにも、白（純潔）、ピンク（上品）、黄色（友情、嫉妬）などあります。黄色のようにマイナスの意味をもつものもあつたり、つぼみやトゲ・花の組み合わせによっても違って、まさに多種多様です。またバラの名前にも意味があり、たとえば「グランデアモーレ」というバラは、スペイン語で「大きな愛」という意味です。すべてに意味がありとても奥が深いです。ぜひ当園のバラを見て回る際は、その一つ一つの花の意味も考えながら見てみてください。

今月の便り

バラ園

麗らかな日が多くなってきました。色彩館のつるバラの開花も楽しみです。そして、今年もバラのお世話のはじまりです！…とは言ってもまず雪割りから。春を待ちながら、少しずつ、着実に、始めていきます。

色彩館

大温室はとても賑やか。スイセン、オトメツバキ、クリスマスローズ…そろそろハナミズキと早咲きのつるバラも見ごろを迎えます。サルココッカが甘く香ってとてもいい気分です。

花と緑の供給センター

ベゴニア・ペチュニアのポット上げ、サルビア・マリゴールドの播種作業と、今月も怒涛の花苗生産が続きます。温度管理もまだまだ気が抜けません。今年は販売用の野菜やハーブ苗のバリエーションを増やしました。どれも生長が楽しみです。

菱餅の話

雪も段々と落ち着いてくる時期になりました。今月は、春の到来を感じさせてくれるひな祭りがありますね。

そのお雛様の雛飾りの一つに、菱餅があります。赤・白・緑の餅を菱形に切ったもので、地域によって多少の色数や形の違いはあるものの、赤は花を、白は雪を、緑は新芽を表しています。雪の下で新芽が春を待ち、花を咲かせるという意味が込められています。形も生命力の強いヒシにあやかり、菱形をしているそうです。

他にも、ちらし寿司や甘酒、雛あられなどにもそれぞれ意味が込められています。

お菓子や料理一つ一つに意味を込め、幸せを願う季節の行事、大事にしてゆきたいですね。

よし
なし
ごと

文：MIZ

ひとつき ひとバラ



文：新堂大樹
(いわみざわ公園バラ園)

イラスト：藤川志朗
(イラストレーター)

第二十四回

ランブラーローズ

アメリカンピラー

American Pillar

作出国：アメリカ

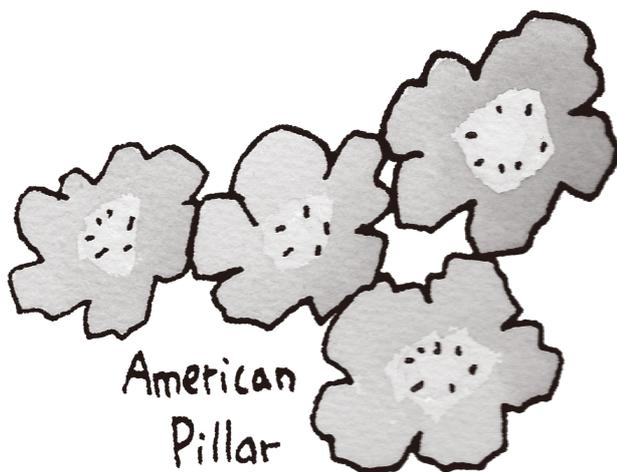
作出者：Dr. Walter Van Fleet

作出年：1902年

ハーディネスゾーン：Z4

一季咲き性

交配：(Rosa wichuraiana × Rosa setigera Michaux) × (Seedling)



アメリカンピラーは、その名の通りアメリカで作出されたランブラー系のバラであり、5m前後まで伸びる大型のつるバラです。花はショッキングピンクの一重～八重咲きの中輪で、中心が白く黄色い雄しべが目立ちます。葉は深緑色で表面には光沢があり、花色とのコントラストが美しく、花つき・花保ちはとても良く、その色調鮮やかな花が房状に咲く姿はじつに華やかです。満開時にはわずかに香ります。

アメリカンピラーは、バラコレクションを擁するフランスの庭園のひとつ『バガデル・バラ園』のアーチにも使用されています。非常に病気にかかりづらく強健で耐寒性もあり、生育旺盛で丈夫さの代表のような品種です。当園でも栽培しているアメリカンピラーですが、こちらも目立った病気もなく、また冬囲いも何もされていない冬の外で枝が越冬できたりと評判以上の強健性で、枝の伸び具合・花つきともに、つるバラのなか、もといバラ園内のなかでもトツ

レベルで成績が良いです。新しい枝は、下からのベーサルシュートが多く、サイドシュートが少ないという印象です。枝は太いものの誘引はしやすく、大きな壁面や低くて長さのあるフェンスでも誘引可能です。交配親であるテリハノイバラ (Rosa wichuraiana) の血筋が混じっているので、少ないですが大きく鋭いトゲがあるのも特徴の一つになります。取り扱う際は要注意ですね。英語で「アメリカの柱」という意味で、大層なネーミングのわりに小花、と思いきや名前にふさわしい樹形やたくましさ兼ねそろえています。

つるバラの見頃としては4月下旬の色彩館大温室のほうが先ですが、バラ園最盛期の7月上旬には外のつるバラも見頃となりますので、そのときには是非、もりもりとした元気で大きなアメリカンピラーを見にいらしてください。

今年も
開催♪

藤川志朗イラスト展

日程

2016年3月19日(土)~

2016年3月27日(日)

20日・日曜日は

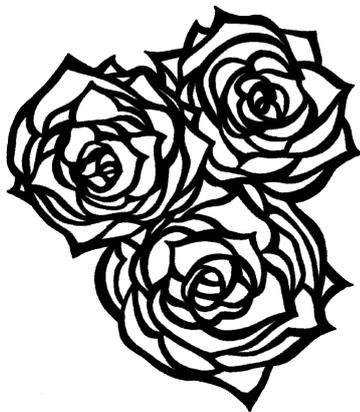
講習会も

あります!

時間: 9:00~17:00 入場無料

場所: いわみざわ公園バラ園室内公園色彩館ロビー

毎年恒例となりました、岩見沢在住のイラストレーター藤川志朗氏によるイラスト展 2016年第1弾。年々進化を続けて魅力アップしている藤川氏の最新作をご覧ください!



フラワーアレンジメント講座

プリザーブドフラワーバージョン

日時: 2016年3月21日(祝・月)

10:00~12:00

場所: いわみざわ公園バラ園室内公園色彩館研修室

定員: 40名 材料費: 2,800円

講師: フラワーデザイナー 秋元 千秋さん

3月の市民園芸講座のご案内

これは面白い!



● 3月13日(日) 13:00~15:00 家庭果樹の楽しい管理

無料 定員: 40名 講師: 内田 哲嗣さん 中央農業試験場

● 3月20日(日) 13:00~15:00 色彩館でスケッチしよう

無料 定員: 10名 講師: 藤川 志朗さん イラストレーター

● 3月26日(土) 10:00~12:00 ばらゼミ①バラの系統と特徴について

無料 定員: 40名 講師: 工藤 敏博さん ローズグローワー